

アジア国際フェリー輸送の拡大に対応した輸送円滑化方策に関する研究 ～国際フェリーの施設要件をとりまとめ航路網予測・施策の評価ツールを開発する～

研究期間
2010(H22)→2013(H25)

プロジェクトリーダー：港湾新技術研究官
担当研究部・センター：港湾研究部

研究の背景と方針

アジア物流一貫輸送を担う国際フェリーの拡大に対応した支援ツールの開発

アジア経済とのつながりが益々強まり、近隣諸国との国際物流においても、定時性、速達性、輸送頻度等の様々な点で国内物流と同水準のサービスニーズが高まっており、新たに韓国やロシアと我が国を結ぶフェリー航路も開設されています。国土形成計画(平成20年7月閣議決定)にも、国際フェリーを活用した国内輸送との連携、アジア物流一貫輸送網の構築が必要であることが盛り込まれたところです。

今後ともアジアとの物流が増大し、より効率的な輸送へのニーズは益々高まり、それに対応したインフラの整備・計画・運営などが求められることとなることから、輸送時間やコストなどで海上コンテナ輸送と航空輸送の中間的な位置づけとなる国際フェリー輸送に焦点をあて、国際総トンに対応した港湾の施設の基準づくりや、国際フェリー航路網や輸送貨物量を予測するツール開発など、国際フェリーのハード・ソフト面の双方をサポートする研究を行います。

研究目標

国際フェリーの施設基準や航路網・評価ツール開発でハード・ソフト面を支援

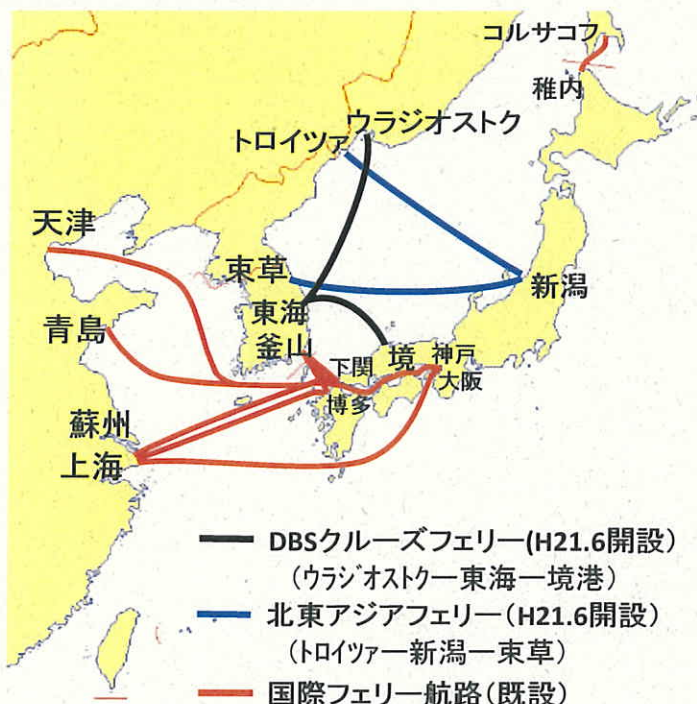
本研究では、港湾施設の基準が未整備であり、貨物流動などの予測ツールも不十分である国際フェリーについて、①国際フェリーの港湾施設の基準づくり、②国内輸送機関との連携を考慮した国際フェリー航路網予測ツールの開発、③国際フェリー網拡充に伴う地域経済へのインパクト評価ツール開発、④国際フェリーのゲートウェイ港湾の比較検討や各種の施策評価を行います。

研究成果の活用

国際フェリー施設の技術基準づくりや各種施策評価により国際競争力強化へ

本研究の成果となる国際フェリーの標準船型やそれに対応する港湾施設については、技術基準盛り込みのための資料となるほか、国際フェリーのゲートウェイ港湾の比較検討や国際フェリー航路網拡充の施策評価結果については、今後の我が国の港湾や物流施策の企画・立案、個別の港湾計画策定等に活用できることとなります。

《国際フェリー航路の現況》



《国際フェリー輸送とコンテナ船・航空の輸送比較》

～上海ー国内工場までの自動車部品輸送事例～

	コンテナ船	国際フェリー	航空
日数	7日	3日	2日
費用	1	1.8	9.1

※ 費用はコンテナ船を1とした場合。国際フェリーは上海ー博多間を想定

《国際フェリー輸送に関わる輸送機関(例)》

